

なんしよん



2011年新春号

新年のご挨拶



あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

ここ数年業界を取り巻く環境は大変厳しいものがあります。そのような環境下でこうして新年を迎えることができるのも、お取引先の皆様方を始め関係各位の皆様方のお陰と深く感謝申し上げます。

新年に入り世相を反映してか、例年以上にDM・メール配信などで経済懇談会・講演会などの案内書が送られてきます。そのような案内書の中に二宮尊徳の言葉を引用した心打つ文章がありましたので、ここにご紹介させていただきます。

遠きをはかる者は富み

近くをはかる者は貧す

それ遠きをはかる者は

百年のために杉苗を植う

まして春まきて秋実る物においてをや

故に富有り

近くをはかる者は

春植えて秋実る物をも尚遠しとして植えず

唯眼前の利に迷うてまかずして取り

植えずして刈り取る事のみ眼につく

故に貧窮す

二宮尊徳

目先のことにとられやすいのが世の常ですがそれでは永続的に繁栄することはないということを説いています。まさに事をなす前の心構えであり真の経営の道につながる言葉だと思います。

本年も弊社は、お取引先の皆様方のご要望に即座に対応でき、ご満足頂きますよう全社員一丸となって業務に取り組んでゆく所存でございます。昨年同様ご愛顧のほど宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方のさらなるご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

平成 23 年 元旦

代表取締役 太田明彦

初詣と昼食会 2011年1月5日(水)

仕事始めのこの日、全社員で八栗寺へ初詣に行ってきました。

四国霊場第 85 番札所のこの寺は商売繁盛の守り本尊とされています。

麓から寺のある山の中腹までトローリケーブルカーに乗って行きます。

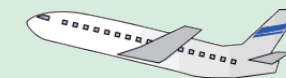
お昼は会社近くの『貞吉』で昼食会です。食事をしながら「新年の抱負」を発表するのが慣わしとなっています。皆それぞれの抱負を語った後、今回初めての企画として「先日行なった中国研修旅行のレポートを社内投票して3位まで決定し、この“庵治石彫工房新聞”に掲載する」という事務部門の提案で、発表会&表彰式をしました。

結果は次ページに掲載しましたので、ぜひご覧ください。



中国研修旅行

2010年12月2日(木)～4日(土)



全社員で中国・廈門への研修旅行を実施しました。広島空港から上海経由で廈門空港へ。移動時間が長く大変でしたが、上海の街並みをバスの中から見学することが出来ました。中国のスケールの大きさを実感した3日間でした。



《中国取引先の工場見学》職人さんから説明を受けています。規模が非常に大きい工場です。



《昼休みの工場》この工場ではちょうど昼休みだった為作業の様子が見られず残念でした。



《福建省 廈門・崇武》



《G614 丁場見学》上記工場近くの平坦な場所に丁場があったので少し驚きました。



《彫刻工場見学》大胆かつ繊細な作業です。



《彫刻作品展示場見学》大小様々な彫刻作品があり その技術は大変すばらしいものでした。



《崇武の港》お昼に食事をした店の前からの風景です。崇武は海に面した所なので海鮮料理がとてもおいしい。



《影彫り彫刻見学》一つ一つ手作業で点を打ちます。だまかな下書きだけで後は絵や写真を見ながら描いていきます。



編集後記

新春号は記事ネタが多すぎて選ぶのが大変という贅沢を味わいました。“Illustrator”を操作するのが初めてで苦勞しました。次はもっと見映えする紙面になるよう頑張ります。 担当：事務部門 田中・野崎・和田

有限会社 庵治石彫工房

【本社】
〒761-0130
香川県高松市庵治町丸山 63 番地
TEL : 087-871-4607
FAX : 087-871-2933
E-mail : sekicho@lilac.ocn.ne.jp
HP : http://ajisekicho.com/

【大阪営業所】
〒598-0001
大阪府泉佐野市上瓦屋 661-1
第 2 ビル 502 号
TEL : 072-469-1125
FAX : 072-462-3899

中国研修旅行レポート

社内投票をして3位まで決定しました。

最優秀賞に輝いたのは事務部門：野崎。
2位は同点で 製造部門：木村工場長
営業部部門：松嶋 の2名。
3位はCAD部門：渡内です。

それぞれのレポートを掲載します。
よろしければご感想等お寄せください。



平成 22 年 12 月 13 日

《中国研修旅行レポート》

野崎 陽子

以前、5 ヶ年計画で『中国研修旅行』の文字を初めて見た時、「えー！！本当に中国へ行けるのー？！」と大変驚きました。仕事上、日常的に「中国製品」「中国加工」「ランレイさん」「ランレイの金さんと電話」「外国送金」などなど、実際に中国の会社と取引をしているにも関わらず、私は実感していなかったと自分で気付きました。そのぐらい、私にとって中国という国は、遠い遠い存在だったのです。それなのに生きているうちに行けるなんて夢にも思いませんでした。（大げさではなく本当です。）そして、旅行日程が具体的になるにつれ、ニュースのような事件が起こらないかと心配しましたが、いざ 2 日前にもなる不安より楽しみの方が大きくなりました。

さて、中国に到着してまず最初に驚いたのは、やはり中国の車事情です。運転の仕方はもちろん、積荷が崩れそうな車も何台も見かけました。そして、高松にはないだろう高さのマンション群はまさに圧巻でした。

そして、次はいよいよランレイさんの工場見学です。何度か写真で見たことのある建物が目の前に現れ、想像以上の広さにまずビックリしました。中に入ると、当社でも見覚えある研磨や切削の機械が何台もズラリと並び、規模の大きさに圧倒されました。ただ、機械の性能が日本の物とどう違うかや、中国と日本の職人さんのやり方の違いなど、詳しくは分かりませんでした。しかし、石粉が真っ白に舞う工場内でもマスクをしていなかったり、足元はサンダルだったり、職人さんの労働環境は決して良くない事は、容易に見てとれました。

そして私が何より一番印象に残ったのは、当社の委託原石置き場でした。原石には石種名の看板が添えられており、よく分かるように置いていました。私はそれを見た瞬間、非常に大きな感動をおぼえました。もっと砕けた表現をすれば、「自分の担当分野はテンション上がるなあ！！」といった気持ちでした。日本の原石がはるばる遠いこの地に送られてきて、加工されるのをここで待っている・・・ああ、石は本当にアモイに来ているんだなあ・・・という、そんな当然の事になぜか感動してしまったのです。たぶん、これが私に今までなかった「実感」なのでしょう。

これからは仕事上の折に触れ、自分の目で見た中国の工場の様子や原石の様子を思い出すでしょう。そして、林さん・金さん・呉さん、さらには中原石商の王社長の顔を思い浮かべながら、電話で話をする事ができます。文章で書く「たったそれだけ？」と言われそうですが、言葉で語る以上に大変大きな物を、この旅行で得られたと思っています。

最後に、こんなにも貴重な体験の機会を与えていただき、どうもありがとうございました。



中国研修レポート

木村晃久

2010 年 12 月 2 日～4 日の間、二泊三日の日程で中国のアモイに研修に行きました。研修期間中は天候にも恵まれ、たいへん過ごしやすかったです。

中国は車の量も多く、自動車だけでなくリヤカーを引いているオートバイ、自転車などスピードの違うさまざまなものが入り混じり、不規則に通行していて、たいへん危険な環境であると思いました。日本と違い車は右側通行で、信号機のある横断歩道を渡るのも一苦労な感じでした。

二日目は工場見学に行きました。石材機器は精度の劣るものを使用しているようでしたが、中国の職人の方は日本に追いつく勢いで仕事をされているようです。その努力やパワーは見習うべきものがあり、大変勉強になりました。石材工場の敷地は、日本とは違い面積は相当広く、それにあわせ従業員も数十倍、事務機器等もかなり充実しているそうです。そのように破格規模の大国と取引していくにあたり、我々日本人は取引等のノウハウ研究も必要かなと思います。

さて、まず自分のやるべきことは、中国他海外から、または他県からの見学者も多くなると思われるので、日頃から意識して工場内の整頓を心がけ、常に明るく対応できるようにとめていきたいと思えます。

今回中国を見学させてもらったことにより、反対に中国からの見学者があるかもしれないと、意識するようになりました。

ありがとうございました。



中国取引先工場の前にて



中国研修を通じて感じたこと

渡内 礼

自分にとっては初めての海外で不安と期待が半々でした。何しろ、その前に尖閣諸島の事件があり、日本も中国も騒いでいたからです。ですが、実際に行ってみれば、そんなことも忘れるくらい、見る物全てが新鮮で、日本との違いを色々と感じることが出来ました。

まず、ランレイの工場を見て、日本とのスケールの違いを感じました。工場内はかなり広く、多くの人が働いていました。それぞれが自分の仕事をこなし、黙々と作業をしている姿に感心しました。その反面、かなり大雑把なところもあると感じました。例えば、石の積み上げ方など、バランスが悪く少し危ないなと思いました。また、道具などが散らばっていて足の踏み場もないところもありました。

しかし、この工場では納骨堂や観音扉、竿のデザインなど今までに見たことがないものも多く、デザイン図面を描くときに有益となるものがたくさんありました。今後、CAD のほうでも参考にしていきたいと思っています。

次に、影彫りや彫刻を実際に行っているところを見ましたが、今回の研修で一番面白いと感じた場面でした。影彫りなんかはかなり緻密な技術で実際に手で彫っているのを見て、すごく手間がかかるのだらうと思います。展示品を見ても、それぞれが本当に写真のように感じられました。彫刻工場でも実際に作っているのを見てスケールが大きいものがたくさんありました。今回の研修では本当に日本とのスケールの違いというものを実感できるものになったと思います。



影彫り展示品

彫刻工場



中国研修レポート

平成 22 年 12 月 11 日

(有)庵治石彫工房 松嶋 隆信

1 2 月 2 ～ 4 日の 3 日間、念願の中国研修に参加でき嬉しく思います。

この 3 日の研修の感想を書かせていただきます。

まず上海をはじめ、アモイの近代化に驚かされました。あちらこちらに高層ビルが建ち並び、幅員の広い高速道路が縦横無尽に伸び、そこを多くの車が行き交う光景を目の当たりにして、ニュースなどの報道等で想像していた以上の近代化に、ただただ驚くというか、圧倒されていました。

この目覚ましい発展は、中国内の石材業界においても、また日本の石材業界においても、多大な影響があるであろうと考えさせられました。

そして、墓石工場や彫刻工場などを見学してもらい、それぞれの工場の規模や機械の数にも驚きました。しかし、決して工場内の就業環境は良くなく、最近の工員離れ（職人離れ）も何となく理解できました。

次回、中国に訪問する機会があれば、工場にて製作状況や検品状況を、工員の方の話を直接聞きながらゆっくり見学したいと思いました。

何かにつけて圧倒されっ放しでありましたが一つ気になったのが、国民性とも言うべきなのか、悪い言い方をすれば「大雑把」「荒っぽい」印象を受けました。

私たちは中国側に、細かい指示をすることが多くあります。この国民性の違いが障害となって良い製品を納めることができません。そこで、今後の指示等をより綿密に行わなければならないと改めて思いました。

ここまで書いたことを見てみると、中国に対してあまり良いイメージを持っていない様に思われそうですが、そうではなく中国の方々のポジティブな考え方や行動に少し圧倒された感じです。

今回の研修で、中国や取引先の状況を知るという点と、上手く言い表すことができませんが、私自身の仕事に対する姿勢を考え直すいい機会になったと思います。

中国研修を実施していただき、本当にありがとうございました。